

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171200585		
法人名	株式会社 ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・三郷		
所在地	埼玉県三郷市早稲田2-27-17		
自己評価作成日	平成27年10月24日	評価結果市町村受理日	平成28年 1月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/11/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyouvoCd=1171200585-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成27年12月 2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様に安心し、落ち着いて過ごして頂けるよう、ひとりひとりのペースを大切にしています。グループホームに入居したからといい制限するのではなく、生活歴を良く知り、今まで行ってきた事が続けて行えるような環境を提供しています。更にご利用者様にとっての思い出のページがどんどん増えていくよう、レクリエーションにも力を入れています。また、ほぼ毎日のように散歩へ出かけ、時には買い物へも出かけます。室内では、季節を感じて頂けるようなレイアウトを作成しています。ゆっくりとご利用者様とお話する時間を作り、のんびりと心に寄り添ったサービスを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の特徴の1つとして、「スケジュールがなく、ご入居者の方が、ご自身のリズムで生活できます」と明示して介護サービスを提供している。具体的な取り組みとしては、1日、1人15分程、地域へ散歩に出かける機会をつくり、地域の方との挨拶など、ふれあいを大切に外出支援を行っていること。そして、入浴回数は、平均は週2回から3回程度であるが、希望により毎日、入浴をする人もいる等、原則、回数と時間は自由で、利用者本位の入浴支援を行っていること等があげられる。これらの取り組みは、今回の利用者調査における、アンケート提出者の満足度100%の評価と訪問時、お話しを聞いた職員による、利用者処遇・職員の対応についての高い評価に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に沿ったサービスを提供できるよう職員同士意見交換や情報交換をし、実践につなげている。	会社、事業所、1階と2階のユニットの4つの理念がある。理念の理解と周知は入所時の研修、玄関・事務所・ユニットでの掲示、職員会議等においての理念の思い起こし、職場内研修等を通じて行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(夏祭り等)へ参加したり、散歩へ出かけたときに挨拶を交わしたりしている。	地域の夏祭り、肉祭り、フリーマーケットへの参加、毎日の地域への散歩、買い物、ボランティアの受け入れ、大学生の職場体験、そして野菜づくり時の地域の人からの指導等を通じて地域との関わりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学へ来られた方へ認知症について詳しくお話を頂いたり、入居者様のご家族へ利用者様の症状についてお話を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様へ日々のサービスの実践状況を報告、ご家族様からの意見を聞き今後活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、市役所、地域包括支援センター職員、町会長、民生委員、利用者・家族等にお知らせをしている。会議では、事故対応等の助言を受け、改善を行い、サービスの向上に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と協力関係が築けるよう、積極的に訪問し、情報交換をしている。	毎月2回、市役所に訪問して利用者の現況、空き状況、介護認定の更新、生活保護、介護保険制度の改正、地域の福祉環境等について、情報の交換を行っている。また、市の研修会に月に1回程度参加している。	市との連携に向けて、月2回の訪問や市の研修会への参加等を行っているところではあるが、今後の取組みとして、地域包括支援センター・市社会福祉協議会との連携を計画している。この実現を期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを実施する為に、毎月身体拘束廃止委員会を開催し、意識を高め拘束をしないケアの確立に取り組んでいる。	事業所は、身体拘束ゼロを目指し、職員採用時の研修、月に1回の身体拘束委員会を開催し、話し合いをして、職員の意識の喚起を行っている。また、職員相互によるスピーチロックの指摘を行い、拘束のない介護支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて、虐待防止について事例を用い、定期的に勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議、勉強会にて資料を用い知識の向上・理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様の不安や疑問が少しでも軽減できるよう、その都度詳しく説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様とゆっくりお話し、自然と要望を聞けるような機会を作っている。ご家族様へも面会時に、要望等お聞きしてる。	利用者等の意向は、週に1回の居室での対話、本社の利用者アンケート調査、2か月に1回の家族会等の機会を通じて把握している。散歩の提案等、意向に沿った改善を行い、サービスの向上に活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見や提案が出た際は、親身に聞く時間を設けている。	月に1回の職員会議で、活動におけるの気づき、工夫、提案が出されている。また、個別面談や日々の支援現場における意見の収集を行い、今年は食事の支援等の意見を活用し、サービスの質の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力実績を認め、本人にも評価を伝えている。また、期間は定めてないが面談を行い意識の向上に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の実績力量に合った研修を受ける機会を確保している。 内部研修・外部研修へ自ら参加希望する者も数名いる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問は行えていないが、研修等に参加し、同業者と交流する機会をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員本意ではなく、利用者本位のサービス提供を心がけている。本人の要望・不安を良く聞き、安全面に配慮しサービス提供をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や要望を聞き、その都度お応えし、納得されるまでお話している。ご家族様とはこまめに連絡を取るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・ご家族への理解を深め、必要とするサービスを見極め提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に生活の中で役割を持って頂き、共に支え合いながら信頼関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子をご家族様へ状況に応じて報告・相談している。また毎月新聞を作り状況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩等でなじみの場所へ立ち寄ったり、近所の方と挨拶を交わしたりしています。友人・知人来設時にはゆっくりと過ごして頂けるよう配慮している。	馴染んだ場所、関係、習慣等を大切にしている。家族・友人の面会(食事時間除く)と家族との外出は、自由である。また、馴染んだ街並み・学校・建物・買物・美容院等への外出介助の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握し、居室の場所等の工夫をしている。各階行き来し、他フロア同士でも関わりを持てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、経過を把握できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、ひとりひとりの意向が把握できるよう努めている。また、意思表示が難しい方は、表情や行動で汲み取るよう努めている。	利用者一人ひとりと週に1度、30分程、のんびりと心に寄り添う時間を持っている。このようなコミュニケーションを通じて、信頼関係の構築を図り、思いを押し測れるようにして、利用者本位のサービスに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報・生活歴を活用し、把握に努めている。また本人・ご家族に話を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身状態、ADLを把握し、職員同士情報を共有している。出来ることは行って頂き出来ない事はお手伝いをさせて頂き、自立支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の要望・本人の意向、課題や主治医の指示を反映しながらモニタリング・アセスメントを行い、介護計画を作成し、状態に合わせ見直しを行っている。	3ヶ月に1回、モニタリングを行ってADL、利用者の状態の変化等を確認している。必要に応じてサービス担当者会議を開き、利用者・家族・スタッフ等で話し合い、介護計画の更新・変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を記録し課題をあげ、情報を共有しながら実践し介護計画への反映に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに合わせ、既存のサービスに捉われず、柔軟なサービスの多機能化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の地域資源を把握し、趣味や心身の力が発揮できるような機会を提供し、安全に配慮しながら楽しく暮らしていけるよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期往診を利用しながら、ご家族の希望する医療機関への通院介助を行ったり適切な医療が受けられるよう支援している。	入所前のかかりつけ医の継続を希望する利用者が3人ほどいる。通院は、原則、家族対応としている。ただし、困難な場合が生じたときは、通院支援を行い、事業所での訪問診療とともに、健康支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期訪問時に気付きや状態の変化について報告・相談をし、必要であれば医療機関へ連絡をし、適切な医療が受けられるよう、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された際は、職員がお見舞いに行くとともに、早期退院に向け医療機関と情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合の指針に基づき、早い段階から、家族・医師・職員と話し合い、事業所で出来る事に取り組んでいる。	ターミナルケア実施を方針としている。このことは、利用前に説明をしている。変化が生じた時は、なるべく早い時期に、家族・医師・職員と話し合い、意向の確認と対応を検討したうえで連携し、終末期の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に速やかに対応できるよう、マニュアルを掲示しており、全職員が適切な判断が出来るよう努めている。普通救命講習など受け実践力が身に着くよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年を通し全員が避難訓練へ参加し、避難誘導の方法・経路を確認している。初期消火訓練の実施、すぐ取れる場所にヘルメットの用意をしている。避難訓練の際、地域にも声をかけ協力体制構築に努めている。	夜間を中心に年2回、火災・地震・水害を想定した訓練を行っている。また、専門家を招き、避難・誘導方法の勉強を行っている。訓練時には、地域にお知らせをして、協力体制の構築を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時や入浴時等は特にプライバシーを損ねないよう配慮した声掛け対応を行っている。また、日々の声掛けでも尊重の気持ちを忘れず、利用者様の安心と誇りが維持できるよう努めている。	トイレの呼びかけ、オムツの交換、失禁の対応、排泄と入浴介助時は、利用者の尊厳に配慮した支援を行っている。また、個人情報や書庫の施錠、パスワードによるパソコン管理等を行い、漏えい防止を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	対応・声掛けの仕方に工夫をし、自己決定をする場面を作り、考える力を維持できるよう努めている。また利用者様の表情や行動で希望や思いを把握できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースに合わせて過ごして頂くよう努め、希望に合わせたレクリエーション・外出等の提供をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容・更衣など、利用者様に選択をして頂き、身だしなみの意識の維持に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食メニューを紹介し、食事への楽しみを持って頂けるよう努めている。また、月刊レクにてご利用様と一緒に食事をつくる機会を提供している。	一人ひとりに丁寧にメニューを紹介している。これは、少しでも食事に関心を持ってもらうためである。盛り付け、洗い物等を一緒に行ったり、月に1度皆で昼食を作っている。時には外食をし、デリバリーも利用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の記録をし、一日に必要な量が摂取できているか確認し、摂取できるよう努めている。状態に合わせて食事形態の工夫、趣向品などの提供などしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科Dr・衛生士の指導の元、一人一人にあった声掛けや見守り、介助を行い、口腔ケアの実施を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄リズムを記録することにより、排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行っている。	チェック表を使い、一人ひとりの排尿パターンを把握している。周囲を配慮した呼びかけを継続的に行う。習慣化して、排尿のサインができるようになり、自分でトイレに行けるよう支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の提供の工夫や、食物繊維のファイバーを用いたり、散歩や運動等行い、なるべく自然排便ができるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望に添い、入浴ができるよう個々にあった支援を行っている。個々の状態に合わせて入浴できるようリフト浴の設置もしている。	毎日入浴する人もいる。平均は週2回から3回程度である。原則、回数と時間は自由である。入浴剤を入れたり、友人と一緒に楽しむこともある。入浴嫌いな人には雰囲気づくりをして入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を理解し、なるべく今まで過ごされてきた馴染みのペースを崩さず過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が服用している薬の用途・副作用を記入した用紙を、すぐ確認できる状態でファイルしている。薬事表は個々にファイリングしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴を把握し、一人一人にあった役割を見出し、できることを行って頂いている。楽しみを持ち張りのある生活を送っていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に添い、散歩に出かけたり買い物へ出かけたりしている。季節ごとのイベントで外出し、室内では感じられない外の季節の空気を感じていただいている。	毎日、一人15分程、地域へ散歩に出かける機会を作っている。行く先は、利用者の希望を含め、馴染んだ場所やイベント等である。街並みや景色を楽しみ、地域の方との挨拶など、ふれあいを大切にしたい外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様了承のもと、ご利用者様の希望に合わせて金銭の所持をしていただいている。買い物へ出かける際は職員が付き添い、選択する機会を提供しお金を使って頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に書いた手紙、はがき等を出しにポストまで付き添いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の状態を把握し、刺激になるようなもの、混乱を招くような物は置かないようにしている。生活感や季節感のある飾りをし、居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。	食堂、廊下等、共用スペースには、床に物が置かれていない為広く感じられる。機能性と転倒防止のためである。トイレも広く、車椅子使用者の使用を容易にしている。毎朝1時間清掃し、飾りつけを工夫して、くつろげる共用空間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	落ち着いた雰囲気のある共用空間となっており、気の合う利用者様同士過ごしていただいたり、ゆっくりと一人で過ごしていただいたりそれぞれ思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様やご家族を情報を共有しながら、馴染みのものや思い出の品などを持ち込んでいただき、安心して居心地よく過ごしていただけるよう配慮している。	危険物以外なら、利用者が入所前に使っていた物の持ち込みは、利用者本位で対応している。室内は、毎朝清掃していることもあって、清潔感を感じさせる。機能性と、安全を配慮したレイアウトは、さわやかさを感じる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態を把握し、利用者様にとってわかりやすい環境づくりに配慮し、「できること」がスムーズにでき、安全に自立した生活ができるよう工夫している。		